

2018年9月

朝晩はめっきり涼しくなりましたが、まだまだ夜は寝苦しい時があります。

冷房は、身体によくないという先入観があり、私の部屋には冷房機はありません。

最初の3時間ぐらいは、グット寝られるのですが、後は暑さのためだけでもないですが

2時間おきぐらいに目が開いて、トイレに行き水を飲んですぐに又眠りにつきます。

2時間おきぐらいに起きるのは、夏は暑さのせいにし、冬は寒さのせいにしております。

今月は活水女子大学音楽学部特別専任教授・活水学院吹奏楽団音楽総監督藤重 義久氏

の講演会要旨の中から抜粋させていただきます。

「音楽教育は人間教育」今日の話はこの講演タイトルに尽きます。

わたくしは中高時代に吹奏楽を経験し、東京の大学に進学しました。

その後、故郷の福岡に帰りました。そして後に九州交響楽団の永久名誉指揮者となられ

た安永武一郎先生に相談し「私立精華女子高等学校で指導することになりました。

そこに35年間おりました。精華の吹奏楽部で専門的な音楽教育を施すことでキャリア

がスタートしたのですが、なかなか生徒がついてこず・・・

でも指導法を工夫することで金賞常連校といわれるようになりました。

楽しい気持ちになれば音は変わる

ちょっとお付き合いください。私が口笛を吹きますので、手拍子で盛り上げてくださ

いますか？ おや。楽しく明るい曲ですけど、手拍子は暗い感じですね。ではみなさん、

今度は心から楽しい、と思って手拍子をしてみて下さい。

・・・音が全く変わりました。こんなふうに音楽って、人の気持ちで音は変わります。

「この楽器をどう叩くか、ではなくて、楽しい気持ちになって演奏してごらん」

すると本当に楽しくなる。楽しい音色になるのです。生徒には「意識しなければ100年たっても変わらないよ」といつもいっています。意識をするだけで、音はとても変わるものなのです。

私がいつも学生たちに言っているのは「いい顔、いい声、いい心」心が楽しい気持ちになると音が変わるので。

「演奏をする」という言葉がありますが、それは正しく楽器を吹くことではありません。

例えば、文章を素読します。朗読と素読は違います。朗読は、演劇と同じように心を込め、自分の気持ちを込めて読むのです。演奏するという事は、これと一緒に。それが生きた音楽になります。

365日叱る教育から 笑顔で褒める教育へ

福岡精華女子高等学校での、私の教育は、365日叱りっぱなしでした。生徒は硬い。

僕も暗い。そして生徒も暗い。

そんなある日、私の指導が根本的に変わったのです。そのきっかけは、私が尊敬する山崎昌平先生の指導法でした。

まず丁寧、分かりやすい。そして笑顔なのです。教わっていても楽しい。分かりやすい。

それでいて習う側の子供たちは集中している、という事に私は気が付きました。

音楽指導というよりも生徒指導、人間教育であることを確信しました。優れた吹奏楽部を育てることは、音楽教育だけを進めていけばいいものではなかったのです。

むしろ「音楽に妥協なし」という言葉がある様に、今までどうり、演奏技術そのものに対しては子供相手でも、私は全然妥協しませんでした。しかし「笑顔」この笑顔については、事あるごとに生徒たちに言ったのです。「演奏していて笑顔が無ければだめだ」と。

まずはとにかくまねる。全国大会に行った優秀校の曲をとにかくまねする。上手に真似てきたら褒めるという事を始めました。生徒たちが演奏に向かう姿勢は「楽譜を正しく吹く」ではなく、「楽譜を通して何かを伝えよう」「自分は何を伝えたいか」という、音楽の表現のレベルに変わりました。真似した音でなく、精華女子高等学校のバンドの音になったのです。

本気で頑張れば きつくても楽しい！！

しかし、日々の練習自体はハードです。時々「こんなにきつい練習だったら、生徒は辞めてしまうのではないですか」と見学した人に言われるほどハードなのです。

けれども、本当の楽しさとはなんでしょうか。実は、一生懸命やった方が、本当の楽しさを感じるものなのです。子供たちも良く分かっていて、ハードな練習で辛くても、それを友達と一緒に頑張った経験というのは、一生の友達になります、自分が本気になって頑張るから楽しいのです。私はこの様に本気で頑張る。一生懸命頑張る楽しさを指導しています。

他に私の指導が変わった点を挙げると、練習方法を変えたことです。最初の練習から最初の音を出す一発目から本気、本番。一般的には、最初は練習のための練習となるのですが、私たちは最初の練習から本番。練習は本番のように行う、というように切り替えていきました。

思いやりがあり 自分で考える。 そんな生徒に育てたい

友達の誰かの顔色が悪かったら「どうしたの?」と心配する。もし欠席したら、言われなくても、電話をしてあげる。そういう気遣いが出来るようになってほしいと思います。私が望むのは、自分で考えて行動する生徒です。社会に出ると答えがない事がたくさんある。その時にぐずぐずしたらダメです。

とにかく間違ってもいいから、自ら行動して、もう一回試みることが大切。

また人は普段ははっきりと意識して声を出す、ということをなかなかしないですね、ですから、かならず毎日大きな声で「今日は頑張るぞ」と全員に言わせています。

まず声を出して、元気ある雰囲気を作ることを考えています。

私は指導することを絶対に諦めない、ということです。人は、人に対して無関心ではないけません。そして、このことは、音楽に関してだけでなく、人のあり方として、そうありたいと考えています。と結んでおられます。

これを読んでいて思うことですが、音楽を花に置き換えて考えるといいのでは思った次第です。

2018年8月28日 西井忠義